

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	理 科	科目	探求生物	単位	1	単位
対象コース	文系（一貫コース、スーパーカレッジ、アクティブカレッジ、カレッジクラス）	クラス	対象クラス	2 年	1・2・3 組	
使用教科書	新編生物基礎 （数研出版）					
使用副教材	五訂版リードα生物基礎（数研出版）					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)



学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか <ul style="list-style-type: none">日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概念を理解させ、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けさせる。生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究し、生物には体内環境を維持するしくみがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識させる。生物の多様性と生態系について観察、実験などを通して探究し、生態系の成り立ちを理解させ、その保全の重要性について認識させる。
学習内容：この科目で学習する大まかな内容 <ul style="list-style-type: none">生物基礎総復習演習
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか <p>(1) 学校 授業を通して、基本的な概念や基本的な知識を体系的に理解すべく、板書および口頭での説明によく耳を傾けるように務めてください。また、理解の定着を図るために基本的な演習問題に取り組みましょう。</p> <p>(2) 家庭 リードαの問題をプリントします。毎日1枚、はじめは何も見ないで自分で解いてみてから各自で丸付けの訂正をして提出してください。基本的な知識は、重要な図表に関連付けながら覚えるといいです。また、模擬試験問題の見直しや新聞・ニュースでの最新情報の収集などで、さらに理解を深めていきましょう。</p>

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか <ul style="list-style-type: none">(1) 定期考査 : 年間2回行います。授業での学習内容に基づいて出題します。(2) 毎日の課題 : 1日1題、提出状況を見ます。(3) 長期休業中の課題 : 休み明けに確認テストを行います。テストの点数で定着度を見ます。(4) 授業の取り組み方 : 板書をノートに写す、演習問題への取り組み、発言、実験時の器具取り扱いや観察力を見ます。
評価における定期考査の割合 75 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか <ul style="list-style-type: none">(1) 関心・意欲・態度 授業中の板書をノートに正確に書き写しているか、演習問題への取り組み方が適切であるか、発現が積極的であるか、課題の提出がなされているか。(2) 思考・判断 各分野における重要事項を体系的に位置づけ、観察される様々な生物現象・実験データと結びつけてその仕組みを総合的に考察できるか。(3) 技能・表現 簡易的な実験器具の取り扱いができるか、実験・観察・授業を通して考察でされることを説明できるか。(4) 知識・理解 各分野における重要事項を正しく理解し、生物における共通性・多様性を理解できるか。

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
	1 0	第2節 腎臓と肝臓による調節	<ul style="list-style-type: none"> 肝臓で様々な物質の合成・分解・貯蔵が行われて、体液の成分が保たれていることを理解する。 単細胞生物・無脊椎動物・魚類の体液の塩類濃度調節について理解する。 腎臓の働きによって、体液中の塩類などの濃度が保たれていることを理解する。 	●			●	
	1 1	第3節 自律神経と内分泌系による調節	<ul style="list-style-type: none"> 動物の体液の濃度が、自律神経系とホルモンの働きによって調節されていることを理解する。 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 心臓の拍動が、意志とは無関係に調節されていることを理解する。 ヒトの内分泌系について理解を深める。 ホルモン分泌の調節のしくみについて理解する。 血糖量調節について、自律神経系とホルモンとの相互作用を中心に学ぶ 体温調節のしくみについて理解する。 	●	●		●	
	1 2	第4回 考査						
	1 2	第4節 免疫 	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚や上皮による生体防御を学ぶ。 免疫を担う細胞や機関の種類と働きの概要を理解する。 自然免疫のしくみを理解する。 獲得免疫について理解する。 二次応答・拒絶反応のしくみを理解する。 アレルギー・自己免疫疾患・エイズ等免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法のしくみを理解する。 	●	●		●	
	1	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 	<ul style="list-style-type: none"> バイオームの概念を理解する。 陸上には、その地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。 バイオームは、そこに生育する植物の生活形によって特徴づけられることを理解する。 バイオームは、相観によって森林・草原荒原に大別されることを理解する。 森林には階層構造が見られ、階層によって光などの環境が異なることを理解する。 光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解する。 陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 森林の土壌の構造を理解し、熱帯多雨林と針葉樹林の土壌の違いを考察する。 草原や水辺に見られる植生の特徴を理解する。 	●	●		●	
	2	第1節 多様な植生		●	●		●	
	2	第2節 植生の移り変わり	<ul style="list-style-type: none"> 植生は不変でなく、長期的には移り変わっていることを理解する。 	●	●		●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
	3	第3節 気候とバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> ・乾性遷移のモデルについて、土壌の形成や光環境の変化などに注意して理解する。 ・気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解する。 ・地球上には、それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解する。 ・世界のバイオームの種類と分布を理解する。 ・日本における水平分布と垂直分布を理解し、各バイオームの特徴的な植物種を理解する。 ・身近な地域の気温と降水量からバイオームを推定し、野外で調査した植生と一致するかどうか確認する。 	●	●	●	●	

【SDGsの各ターゲットについて】

ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】

高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック

道徳

※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に